

家庭の高齢者をサポート「ゆにしあ」(山形)



池田百合子さん(左)が見守る中、丹野正美さん(右)の食事の介助をする妻キヨ子さん(中央)

山形市柏倉

「食の介護」きめ細かく
食べる機能が低下した高齢者がいる家庭などを訪問し、家族に食事介助や調理のトレーニングを行う一般社団法人「ゆにしあ」(山形市、池田百合子代表理事)が設立から2年を迎えた。食に関する家族の疑問や不安にきめ細かく対応し、誤嚥(ごえん)性肺炎などの防止に尽力。「介護する人、される人を食で元気にしたい」と活動を展開している。

管理栄養士の池田代表理事が2011年1月に任意団体として設立した。12年3月に法人化し、現在は同じく管理栄養士の秋葉恵理事業統括マネジャーと共に訪問指導。主に退院直後の療養者を介護する家庭のサポートに力を入れている。退院後の介護食については病院でも説明はあるものの、それぞれの療養者や家庭に合った栄養指導をすることでの介護の負担や誤嚥性肺炎

介助や調理指導 誤嚥性肺炎防止に尽力

炎などの危険性を減らすのが狙いだ。

療養者の状態や食の好みなどを確認した上で、より適切な食事介助や調理方法を提案。家族に付き添ってミキサーなどを利用した調理トレーニングのほか、栄養に関するアドバイスをやっている。

同市柏倉の丹野正美さん(87)宅では、病気で約1カ月間入院した正美さんが退院した12年9月からサポート。入院中は点滴で栄養を取っていたといい、調理指導を受けた家族のよしのさん(71)は「退院直後は不安だったが、どのぐらいミキサーをかけるかやカロリー計算などを丁寧に教えてもらい、自分でも作れるようになった」。正美さんはその後、飲み込む機能が向上し体重も増加するなど経過は良好という。

設立のきっかけは池田さんと秋葉さんが同じ老人ホームに務めていた08年、デイサービスを利用して70代男性との出会だった。男性は筋萎縮性側索硬化症(ALS)を患い、食べる機能も低下。施設ではムース状の食事を提供したものの、自宅では調理がうまくいかず、ほとんど食べていなかったと知った。

誤嚥(ごえん)性肺炎 加齢や病気で飲み込む能力が衰えたため、口の中の細菌が食べ物とともに肺や気管

支に入り発症する肺炎。予防法は口の中の清潔確保や食べやすい食事内容への配慮など。